

平成18年3月24日

## 冷凍食品業界における 容器包装3R推進のための自主行動計画

社団法人 日本冷凍食品協会

### はじめに

社団法人日本冷凍食品協会は、平成11年2月に策定した『冷凍食品業界における環境自主行動計画』において、循環型経済社会の構築を目標のひとつに掲げ、「一般廃棄物となる消費者用包装（紙・プラスチック）については、平成12年完全施行となる『容器包装に係わる分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）』に基づきリサイクルを促進するとともに、素材の見直し・包装の簡素化についても検討し、これを推進するものとする」と定めている。

冷凍食品業界各社は、この行動計画に沿ってリサイクルの推進等に努めてきたが、容器包装の3R（リデュース、リユース、リサイクル）のさらなる推進を図るため、新たに『冷凍食品業界における容器包装3R推進のための自主行動計画』を策定し、公表する。

### 容器包装3R推進のための自主行動計画

#### 1. 3Rの推進の現状

食品の容器包装には、安全性の確保と製品形状の保持のための十分な強度と、多岐にわたる義務表示および任意表示が可能な表面積が必要とされる。さらに、 $-18^{\circ}\text{C}$ 以下の低温で流通する冷凍食品の容器包装については、耐水性、耐油性、遮光性等に加え耐寒性が求められるうえ、賞味期限が製造日の1年～1年半後となることから長期的耐久性も必要となる。

そうした中で冷凍食品メーカー各社は、容器包装の簡素化、薄肉化、トレーの廃止、紙製トレーへの切替え等により、リデュースとリサイクルの推進を図っている。

一方、冷凍食品の国内生産量は増加傾向を辿っており、また、需要に見合っただ単身世帯向けの少量パックの比率が高まるなど、容器包装総量としては増加せざるをえない面もある。

#### 2. 3R推進のための行動計画

冷凍食品の容器包装の3Rを推進するため、以下の自主的な取り組みを実施する。目標

年次は 2010 年度とし、取組みの結果については毎年度検証し、公表する。

### (1) リデュースの推進

容器包装材料メーカーと連携して技術の開発を継続し、2010 年度までに 2004 年度実績比 3 %削減（原単位）を目標に、冷凍食品業界を挙げてプラスチック製容器包装のリデュースに取り組む。

（具体的取組み項目）

- ・ 容器包装の簡素化
- ・ 袋およびトレイの薄肉化
- ・ プラスチック製トレイの削減又は紙製トレイへの切替え

### (2) リサイクルの推進

材料リサイクルが困難なアルミ蒸着フィルム、ラミネートフィルム等の使用については、品質保持能力の維持を考慮しつつ、極力これを削減する。

なお、冷凍食品の容器包装にはリユースが可能なものはないが、冷凍食品工場に納入される原材料の容器包装については、通い箱の利用等リユースが可能である。原材料の容器包装は一般廃棄物とならないため容器包装リサイクル法の対象外ではあるが、原材料メーカーの協力の下、リユースの推進に努めることとする。

### おわりに

「1. 3Rの推進の現状」で述べたように、冷凍食品の容器包装には多くの機能・性能が求められる。特に、安全・安心の確保に果たす容器包装の役割は大きい。また、冷凍食品の容器包装においては、リデュース効果の大きい詰め替え容器の採用は、商品の性質上見込めない。

このような状況の下、上記削減目標の達成は困難を伴うことが予想されるが、冷凍食品業界全体が一丸となり、また関係各方面の協力を仰いで、本行動計画を着実に推進して行く所存である。